

Next, you must delegate the job to a subordinate.

次に、部下に仕事を任せなければいけません。

to delegate... ...を任せる

やまと言葉 「任せて渡す」というのがコアの意味合いです。「仕事を任せる」、「権限を委譲する」などの意味があり得ます。

a subordinate 部下

You must delegate the entire job, not just pieces of it. You must also delegate your decision-making, negotiation and implementation authority.

ひとつの仕事をまるごと任せなければ駄目です。仕事の部分、部分を与えるではありません。また、意思決定、交渉、仕事の実行の権限も委譲しなければいけません。

~, not ... ~、...ではなく

パターン構文 よく出てくる「x」の説明の仕方、「(こう!) x(...じゃなくって!)」と来ました。聞き取りでは、not...と来た時点で、「x(バツ! こっちじゃなくって!)」と頭にこすりつけて後ろを聞くと、頭に意味が残りやすくなります。

You must delegate... ...を任せなければだめです。

ロジック 「部下に仕事を任せなさい」というメインポイントを詳しく説明してくれているのが最初のサポート部分です。サポートへの転換点に、本書 P. 167 で紹介したような、「より詳細な説明」が来ることを示す特徴的な「旗印」表現は特には来ていません。けれども、実は、聞き取りの大きなヒントになる点があります。英語では、前に言った英文と同じかたちで文が始まったときには、前に言ったことを別のことばで言い換えて詳しく説明したり、より具体的に説明したりする内容がくることが非常によく見られます。これもそのパターンですね。You must delegate ...と始めたメインポイントとまったく同じかたちを踏襲して、また You must delegate ...と聞こえてきた時点で、「あ、同じ文のかたちだ。これは詳しく説明してくれる可能性があるぞ」という感覚で聞き進みます。少し高度な視点ではありますが、余裕があればこの意識を持って聞いてみてください。

decision-making authority 意思決定の権限

implementation authority 実行する権限

This is very important. When this is done correctly, you will succeed in making your subordinates feel ownership of the job they are doing, and believe me, they will do more for themselves than they will ever do for you.

これは、非常に大切なことです。これを正しくやれば、部下に自分のやっている仕事を自分の仕事と感じてもらえます。いや、本当ですよ、そりゃ、自分のためという方が、他人のためよりも絶対頑張りますよ。

This is very important. これは非常に重要なことです

ロジック 話のコンテキストは「アドバイス」ですから、自分のアドバイスを受け入れてもらうべく、その重要性や利点で重み付けして、自分の言ったことを「売る・アピールする」サポートがきています。This is very important. と来た時点で、1)「詳しく説明」してくれる一つのサポートが終わり、もうひとつサポートが来たこと 2) しかもそれが、重要性を訴える「重みづけ」のサポートであること をしっかりと押さえながら聞けるといいですね。「部下に仕事を任せなければいけません」と述べたメインポイントに対して、後から This is very important. で、その重要性をねじ込んで強調してくれている感覚を味わいながら、

このタイプのサポートに慣れていきましょう。

When ~, you will succeed..., and they will ... more... ~したとき、...できます。そしてずっと...になります
ロジック 利点をアピールして、説得してくれています。そのヒントになるのが、When ~, you will succeed..., and they will ... more...の部分です。「これをやれば、こういうプラスがありますよ。こんな利点がありますよ。」のかたちですね。聞き取りのときには、まず、When this is done correctly...「これを正しくやれば・・・」と来たところで、「あ、利点でサポートしてくれそうだな・・・」という意識を持って先を聞き進みます。そして、you will **succeed** ...「...**できます**」、and they will do **more** ...「**そしてもっと頑張**ってくれますよ」の太字になっているような表現をヒントに、アドバイスを実践することで得られるプラス点を強調し、印象づけてくれている感覚をしっかりと感じ取れることを目指しましょう。

You will succeed (in...) ...できます

やまと言葉 直訳的には「成功する」という意味ですが、「...が(うまく)できる」のようなニュアンスです。

ownership 自分の仕事だという感覚

やまと言葉 コアの意味は、「所有していること、その状態」で、「所有権」の意味でも使われます。しかしアメリカ文化では、もっと広い意味で「自分のものだという感覚」という意味で非常に大事なプラス概念としてよく登場します。市民が政治について、社員が自分たちの仕事について、前向きな参画意識が持てる望ましい状態を指して、「ownership が感じられている状態」というわけです。to feel ownership of the job で「仕事を自分のものとして感じる」という意味になります。

the job they are doing 自分の仕事

パターン表現 「the job (仕事)」だけで置いておいてくれた方がよほど聞き取りがしやすいのですが、英語は本当に丁寧に (that) they are doing (彼らがやっているところの・・・) と日本人なら言わなくても分かるような情報を言ってくれるのです。そのために、この例のような「名詞 + 修飾節」のワンセットのかたまりが頻出します。聞き取りで慣れておきたいパターンです。

..., and believe me, いや、本当ですよ

慣用表現 口語的な慣用表現で、「絶対だよ、本当だよ」といったニュアンスで強調するときに使います。

to do more for themselves than ... 自分のためのほうが頑張る

やまと言葉 直訳的な「自分のための方が**多くをやる**」という意味から、「自分のための方が**頑張る**」といったニュアンスになります。